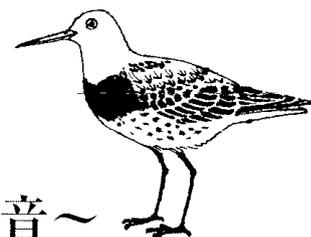


音の散歩路



～東京湾岸・野鳥の楽園とジェットの轟音～

山手線浜松町駅からモノレールで3つ目の流通センターで下車し、環状7号線に沿って海に向かって歩く。京浜運河（写真-1）を渡り、

りの人々とすれ違いながら15分程で東京都立東京港野鳥公園の玄関に着く。（写真-2）湾岸を埋め立てた後にできた水溜りや原っぱに野鳥が集まるようになった所を整備して、平成元年

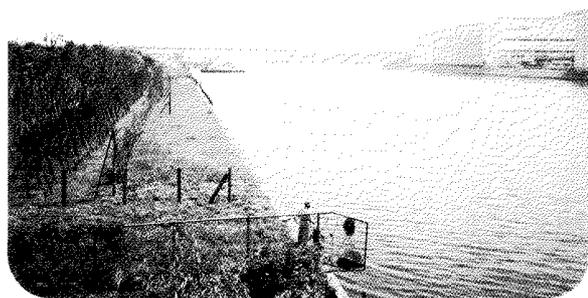


写真-1



写真-2

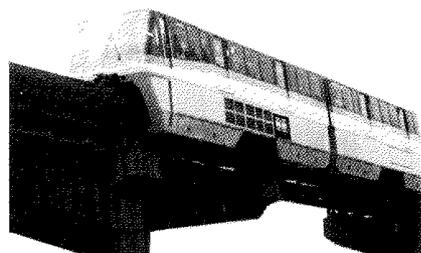
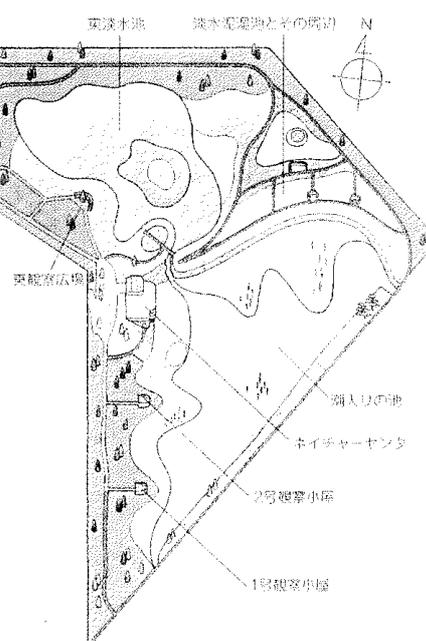
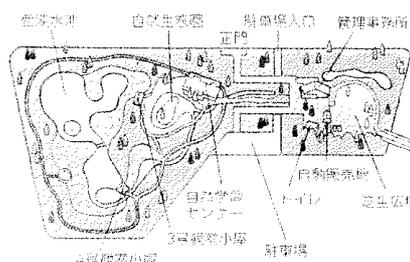




写真-3

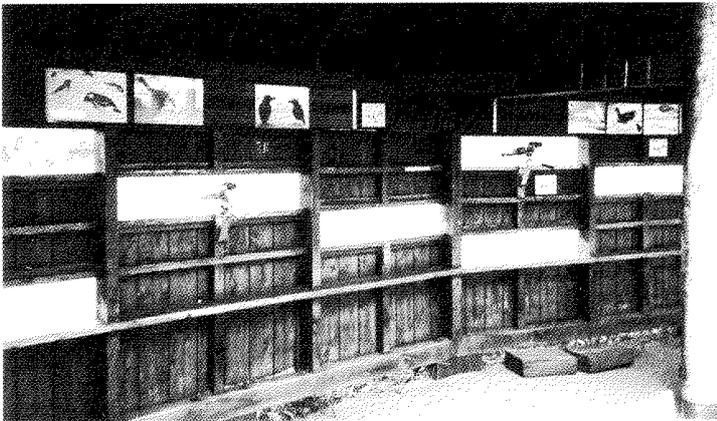


写真-4



写真-5

に完成したものである。広さは24.3ヘクタールあり、開園以来約200種類の野鳥が記録されている。半日程度の散歩路である。

芝生広場から橋を渡って公園内の小路を歩いていると、ここが都会のど真ん中という気分は

消え去ってしまう。(写真-3) 木々や草むらに潜む昆虫の鳴き声に混ざってハシブトカラスが警戒する？鳴き声を背に、やがてバードウォッチングのための東観察小屋に到着する。(写真-4) 望遠鏡を覗くとヨシ原に囲まれた東淡

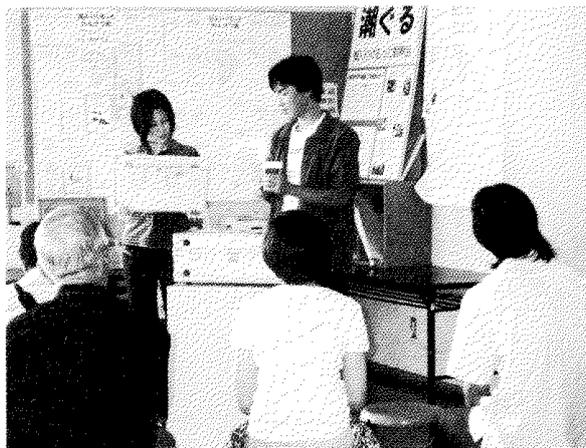


写真-6



写真-8



写真-7

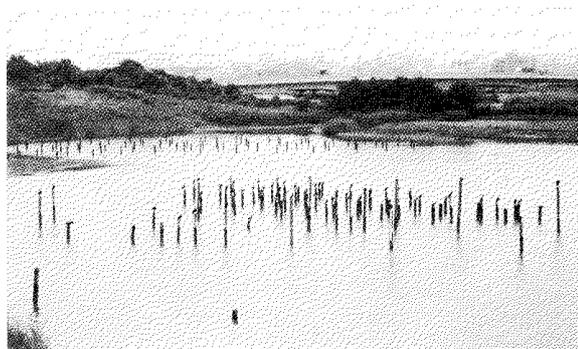


写真-9

水池にアオサギが2羽のんびりと水遊びをしていた。(写真-5) 残念なことに心ない人に持ち去られた望遠鏡がかなりある。一番たくさんの鳥に出会えるのは冬越しの季節(10月下旬から3月上旬)という。

やがてネイチャーセンターに到着する。当日は東京農業大学により野鳥観察のレクチャーが行なわれていた。(写真-6) ここの2階で電子的ではあるがいろいろな野鳥の鳴き声が聞ける。ピックアップでテープをなぞると再生する。(写真-7) この他にも、鳥の体重に合せたぬいぐるみがあり、持ってみると水かきのある鳥は以外な重さであることが実感できる。(写真-8) また、センターには観察の手伝いやガイドをしてくれる専従のレンジャーのほかボラ

ンティアグループもいる。視聴覚室ではビデオを上映している。

さて、耳を澄ませて野鳥の鳴き声を聞く散歩路と考えて来てみたのだから、見事に外れた。4、5キロ南のところに羽田空港があり、この付近が着陸進入空域になっていたのである。センターの観察窓から潮入の池を見ると、5分と空けずにジェット旅客機が悠然とエンジン音を響かせながら鳥達の上空を通過して行く。カワウも慣れっこであるらしく杭の上で悠々と日光浴をしている。(表紙の写真、写真-9) 海水を引いているので小魚が多く、カワウの群れが得意の潜水で追う姿も見られるという。センターの地下からは干潟に出られる。人の気配にヤマトオサガニが穴の中に逃げ込んだり、泥の上でも

SOUND



写真-10



写真-11

皮膚呼吸できるトビハゼが見られる。

次に、一旦入口に戻ってから自然生態園に向かう。昔懐かしい小川や田んぼ、畑、雑木林が姿をあらわす。(写真-10) 多摩川下流域に広がっていた農村風景をモデルに再現したもので、昔は東京のあちこちにあった風景である。小川にはメダカ、トンボ、アメンボウがいる。遊んでいる子どもの「ザリガニ発見！」という声が静寂の空間に響く。中年以上の諸氏にとっては、ここの風景に出会うだけでも来た価値がある。奥には西淡水池が鏡面の様に静かに広がっている。(写真-11)

野鳥のさえずりに耳を傾ける散歩路と思っただが、実際には都会の暗騒音にジェットの轟音が割り込むはざまに、虫達や野鳥の鳴き声にふと耳が傾く不思議な音環境であった。来園者も少なめで都会の静寂な一瞬を妙に意識させられる散歩路である。(財団 江沢記)

- 東京港野鳥公園問合せ先 TEL 03-3799-5031
- http://www.tptc.or.jp/park/yacho/y_top.htm
- 休園日：月曜日（月曜が休日または都民の日の場合は翌日）・年末年始